

## KSKP

## 障害者情報クラブニュース 17

**支援費制度を有意義に運用していくには?**

坂上正司

激動の二〇〇二年が始まりました。ヘルパーなどの派遣を措置制度で受けている人や施設入所の人は、来年四月から支援費制度に移行しますので、この秋からは申請等の準備が必要です。安易に成年後見人制度に頼らず、自分でできるだけ自己責任で契約してしまいます。他にもハートビル法改正、兵庫県福祉条例改正、新障害者プラン策定、精神障害者の刑法に名をりた戦前の保安処分の復活、障

害者の権利制を保障しない人権擁護立法など目を離せないことが明白押しです。新聞やニュースに常に耳を傾けて、そしてはつきり意見がいえるようにしておきましょう。

支援費制度をまともに運用していくには、自治体が今までのような国のおこぼれをあてにするようなスタンスではダメなのです。「国の補助がない」「予算がない」といういいわけは、この制度では通用しません。特に宝塚のように、不便でしかも利用者のいない建物ばかりを建て続けた自治体が赤面もせずに言つてはいけないのでしょう。

次に、自治体は自主的にもつと勉強すべきです。支援費制度について質問をしようとするときには、「国が何も決めてく

れない」と返りますが、自治体の人間が利用者と比べてそんなに制度を理解していないことが多いくらい、介護保険導入時によと言うほど思い知らされます。それより、むしろ知りたいのは、少しくらい制度の枠組みが変わったところで対応していくつもり、あるいは構えがあるのかということなのです。いざれにせよ、国が決めることは大枠でしかなく、地方分権のもとでの制度設計なのですから、少々の枠組みの違いは今となつては自治体の裁量でなんとでもなるところにきてます。それならば、どうすれば利用者のサービス選択の権利を実現できるか、自分で決定した生活を営むためには、どうすれば利用者のいない建物ばかりを建て続けた自治体が赤面もせずに言つてはいけないのでしょう。

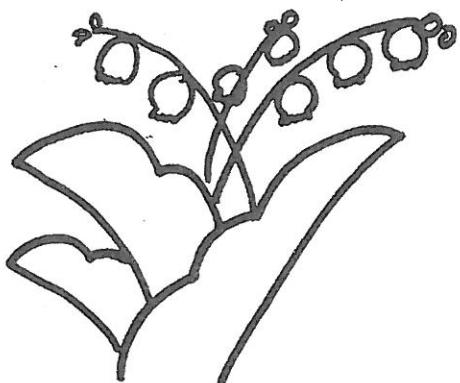
次に、自治体は自主的にもつと勉強すべきです。支援費制度について質問をしようとするときには、「国が何も決めてく

ならば、支援費制度を客観的にみることができます。今、まま支援費制度がスタートしてしまえば、利用者が受けられる制度の時間数や種類も役所の窓口担当者のさじ加減で決められてしまい、介護保険の要介護認定のような（ある程度）客観的なシステムにはなり得ません。また、当然サービス提供者として協力を求めなければならない障害者小規模作業所や障害者事業所の立場も不明確なままになります。

### 市民としての障害者（利用者）の役割

市民としての障害者は、あらゆる手段を講じて支援費制度を理解する必要があります。今年の十月になれば支援費制度の利用申請の受付が始まります。それまでに、自分の生活の目標を立てて、それを実現するためにどのような支援、サービスを組み合わせることが有効かを支援

者と一緒に考えておかなければなりません。だから、わからぬことが少しでもあれば、市役所や地域の障害者を支援している作業所などに問い合わせる必要があります。黙つてじつとしているだけでは、何のサービスも受けることができなくなります。また、知識を身につけなければ、自治体やサービス事業者に騙されていてもわからなくなってしまう。



### 小規模作業所・事業所の役割

支援費制度の指定事業者の説明会や事業者指定がそろそろ始まるうとしています。小規模作業所の形態でサービス提供、特に介助派遣事業を行っている団体にはある意味で死活問題になるかもしれない。できるだけ資格や人材をそろえて、事業者指定を受ける必要があります。

一方で、介護保険とちがって、民間営利企業が積極的に支援費制度のサービス提供に乗り出す

人は、サービスの質と量が来年4月以後も減らないよう気につけなければなりません。なぜなら、自治体はすでにサービスの総量を減らすために手を変え品を変え迫っています。自分でサービスを選べるということは、それに伴う責任が発生するということを肝に銘じてもらいたいものです。

今までに何か支援費制度の対象となるサービスを受けている

とはとても考えられないのも事実です。支援費制度の利用者数が介護保険の一割程度と見込まれていますし、従事者にはコミュニケーションが複雑な対応が求められ、また現在のヘルパーや介護福祉士がおもに高齢者サービスの研修しか受けていない、障害者の支援ノウハウが乏しいこともその理由として考えられます。このようないくつかから考えるに、大都市以外では極端にサービスの供給量が不足することは容易に想像ができます。支援費制度では、介護保険とは違い支援費の総額に限度はもうけていませんが、その地域で供給できるサービス量に限りがある場合は、それを理由にしてサービスの利用限度を定めることもあり得るわけです。そうさせないためにも、障害者へそのニーズにあつたサービスを提供してきている作業所の事業者指定ということの重要度が増してきます。

このように、支援費制度では

## 二〇〇二年度通常総会

去る五月十八日(土)、売布東の町に新しくできたプラザ・コム二階の研修室で二〇〇二年度障害者情報クラブ通常総会が開催されました。

出席者は約三十名。レクレー

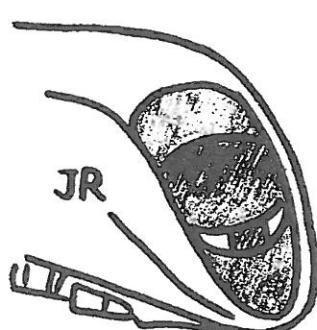
ションも含めて徐々に行事への参加者が増えていることはうれ

自治体と市民(障害者・利用者)、そして小規模作業所(サービス提供者)が一体となつて運営に向かわなければ有意義なものにはなり得ないでしょう。それに一部の自治体では、相変わらず役人風を吹かせて「自薦登録ヘルパーの面接をするから市役所へ来なさい」などと囁いています。理由を尋ねると、「金を出す以上、どんな人間か知る権利がある」と答える始末です。こういう自治体を少しでも減らすためにも障害者、支援者がしつかりするしかありません。

しい限りです。

### 交通バリアフリーについて

東京とこちらの交通バリアフリーのことについて感じたことを書いて下さいと依頼されたのですが自身は頼まれて車いすを押すだけですからどの様なことを書いて下さったのですが私は頼まれて車いすを書いて下さいと依頼されたのでも別に苦にはなりませんでした。ですから特に意識をしていたわけではありませんが改めて考えて見て気づいたことを書くことにしましょう。



まず地域としての差ですが鉄道の場合大きな差のあることが

—  
८

私はこれまでほとんど個人のボランティアとして東京ではやつっていましたので大抵私の車であちこちに一緒に移動していましたから東京駅と小田急線の一部の駅しか知りませんがここに大きな差が一つありました。それはこちらにはホームをまたぐエレベーターがないと言うことです。

小田急線に長後と言う小さな駅があります。ここは電車に乗り換えるためのエレベーターは改札の内側にありそれと別に道路から改札に繋がるエレベーターがあります。当然それは駅の反対側にもあります。横断できます。皆結構便利にそれを利用していましたよ。(一般の人) こちらでは余り見かけないようですが?

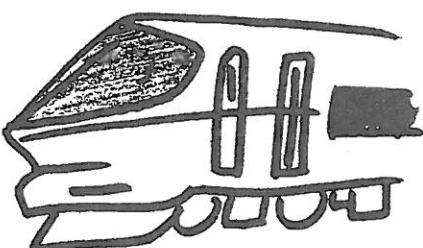
次にJRについてです。神戸の駅の障害者用のエレベーターは貨物用ですね。

東京駅の新幹線用のエレベーターも(車椅子専用)貨物用です。

どちらも乗客が通るのとは場違

いの雰囲気の所を通つてホームに出ます。

まして東京駅は神戸のように小さな駅でないので10分ほど歩きます。



JRの障害者対策がようやく最近始まつたばかりなので設備の面で既存のものを流用するのはわかりますが少なくとも6大都市の駅くらいは専用のものを使つたらと思います。利用される方が「俺は荷物扱いか?」と不愉快に感じるのではないかとも思います。

まして東京駅は日本の顔のですから外人にもそんな思いをさせては問題ではないかと考え

たりもしますね。後一つこれは交通機関ではあります。りませんが「銀行」です。書類の記載台の高さを可変式のものに出来たらばと思います。役所などは最近高さの違う記載台をおいてあるところもあるようですが銀行では見ませんね。ついでにワープロを一台置いておけば言葉の不自由な人たちでも自分で用が足せるでしょう。それを見せたら案内係の綺麗なお姉さんが代わりにやつてくれたりしたら預金が増えるかも? A4で1枚と言うことなので今回はこれだけにします。また何か機会があれば私の気づいたことをお話しします。

とりあえず今私が感じていることはタクシー乗り場がまるで車椅子に対して配慮がされていないと言うことですね。一般的には日本は何処も「横並び」頑張れ関西 日本をリードするの関西パワーだ!

## トライやるウイーク感想

実施日 五月二〇日～二四日

トライやるウイーク中、私達

は色々なことを思い、学ぶこと

ができました。

中山寺へ行く時、車いすだと  
スロープが宝塚方面側ホームに  
ないため、遠回りをしなければ  
行けませんでした。十分くらいか  
で行けるはずが三十分くらいか  
かりました。隣の駅であっても大  
変なことだと思いました。

次にエレベーターに乗ろうと思  
つて車いすの人用のインターフ  
ォンがあるのにその前に段差が  
あつて押せませんでした。車い  
すの人へのインターの音に、これ  
じや意味がないな  
あ、と思いました。

今回いろいろな体験をしてみ  
んな自分のことしか考えていな  
いと感じました。日本中の人がこんな体験をし  
たらどんどんひとりひとりが他

の人ことを考えて行動できると  
思いました。

そして「バリアフリー」と言  
つているが、まだまだ社会には  
バリアフリーをしなければいけ  
ない場所があることに気づきま  
した。

I-Lセンターの人達みなさん、  
優しく、明るく、元気でおもし  
ろく、みんなが自分  
をだせていると感じました。  
1週間ありがとうございまし  
た。

宝塚中学校  
永井さん、稻継さん、川端さん  
トライやるウイーク感想文より

## II 私のダイエット日記 II

飯塚博子

私は約一年間で、おおよそ八  
ヶ月体重を落しました。と言  
うのも、一昨年頸椎症の手術  
をリハビリのためほぼ一年間入  
院生活を送り、その生活がたた  
つたのか?退院して自宅に帰つ

て来た時には今までの人生の中  
で、最もヘビー級の身体になっ  
てしまい、体重計に乗った瞬間の  
ショックはかなりのもので「自  
分でも信じられない!」いう感  
じでした。それに輪をかけてショックだ  
ったのは入院前に着ていた洋服  
がほとんど着れなくなつており、  
特にズボンやスカートなどは全  
く履けず、ウエストのサイズを  
測つてみると「あり得ない!」  
と、思わず泣き出したくなるほ  
ど、膨張していました。

丁度その頃、ウチへ来ている  
アーテンダトさんの一人に「やせ  
アカンわ!」と言つてゐる人  
がいて、その彼女と話し合ひの



結果「ふたりでダイエットレー  
スをしよう」ということになり、  
単なるダイエットの競争では気  
合が今イチ入らないので「目標  
の期日と体重をそれぞれ決めて、  
その目標から結果的に遠かった  
方には罰ゲームを課そう!」と  
いうことになり、その罰ゲーム  
がかなり過酷な内容だったのでも  
「これは負けたらシャレになら  
へんわ! どうしても痩せな!」  
とお互いダイエットへの強い意  
欲で、レースを始めました。  
ただ私と彼女では「ダイエッ  
トをする上で条件」がかなり  
異なります。やはり彼女は身体  
に障害がない分思うままに好き  
な運動やスポーツができますが、  
私は障害がある分、極めて限  
られた運動しか出来ません。

「痩せるには運動と食事療法」

も「何も人と競争しなくて、  
自分のペースで痩せたらエエん  
ちゃう」と、ほんどの人が私  
が負けるのを前提に否定的なア  
ドバイスをしてくれました。  
結果から先に言うと、見事み  
んなの予想を裏切つて、彼女と  
は勝ち負けの差がないくらい、  
互角に闘い、結局お互い目標を  
達成し「勝負なし!」に持つて  
行きました。  
「運動に極端な制限がある」  
という不利な条件で、なぜここ  
までダイエットレースが出来た  
のでしょうか?  
やはり気力と知力でしょうね。  
まず食事は、それまでのもの  
から若干変え、一回で食べてい  
たご飯をおかゆにし、二回に分  
けて食べるようになりました。

あとは油物と甘い物を少し減  
らして野菜と魚、肉は主に鶏肉  
中心にし、なるべく間食はしな  
い。つまりそれまで結構、洋風  
の单なる麦茶から「バナバ茶」  
に変え、飲む量も二倍ぐらいに  
増やしました。「の「バナバ茶」、  
いささかクセはあります。私が  
の場合は結構効果があつたかも?  
運動も限られているとはい  
全く出来ない訳ではないのでベ  
ットの上に横たわり、両足を何  
回か上げたり下ろしたり、肩か  
ら上体を何回も起こしたり、寝  
かしたり。。。

いわゆる腹筋の運動を、一日  
の中でサイクルを決めて何回か  
繰り返して、習慣になるくらい  
やっています。これはお腹のぜ  
よい肉を落としてウエストを縮め  
ようと、始めたのですが「腹筋  
を鍛える」ということは「腰を  
守る」ことに繋がるので私とし  
てはむしろ「腰を守る」という  
ことにメリットを感じ腹筋の運  
動も苦にならず、続けられてい  
ます。

もう一つは「入浴方法」。それまでは頭と顔と体を洗つて5分くらい湯船に浸り、サツと出て来ていたのですが、ダイエットを始めた後に、からは全身を洗い終わった後に、ぬるめのお湯で30分ほど、半身浴をするようにしました。その湯船に入つて、三十分钟の間もじつとしているのではなく、出来る範囲でお湯の中でも身体を動かしているのです。中で運動していると、かなり体力を消耗するらしく、真冬でもいくらくらい軽くても30分もお湯の中でも運動していると、かなり疲れを感じます。そしてもう一つの秘訣は入浴の30分くらい前に「バーム」という、身体の脂肪の燃焼を助ける効力のある飲み物を毎日飲んでいました。

「ミスサイズ」からようやく普通の体型がスリムになりダイエットを始める前の「おばさんサイズ」の洋服が着れるようになり、私としてはホッとひと息。洋服のサイズだけではなく、自分自身も身体を動かすには、もう少しはあるのですが、確かにその時「身軽になり、かなりラク」なのです。ちなみに介助者の人達も「痩せた今やから言うけど、最高に太つてた時は介助もちょっとシンドかつたんよ。少しでも瘦せてくれて、ラクになつたワ」とのこと。

そもそも私が「痩せなければ!」と思ったのは洋服のサイズのこともありました。「このまま体重が増え続けると、今まで運動していると、かなり体力を消耗するらしく、真冬でもうつすら汗をかき心地良い疲れを感じます。そしてもう一つの秘訣は入浴の30分くらい前に「バーム」という、身体の脂肪の燃焼を助ける効力のある飲み物を毎日飲んでいました。

「そもそも私が「痩せなければ!」と思ったのは洋服のサイズのこともありました。「このまま体重が増え続けると、今まで運動していると、かなり体力を消耗するらしく、真冬でもうつすら汗をかき心地良い疲れを感じます。そしてもう一つの秘訣は入浴の30分くらい前に「バーム」という、身体の脂肪の燃焼を助ける効力のある飲み物を毎日飲んでいました。

「ダイエットをする」と言うと、何だかすぐ「キレイになりたい!」とか「男性の視線が気になる!」と言うことと、結びつけ思われるがちで、確かにその場合それよりも「健康になる!」と「何とか女性一人でも介助してもらえなくては!」と言ふ気持ちが強かつたようです。

結果的に洋服のサイズが落ちたり、罰ゲームを免れたりと嬉しいことはたくさんありました

結局私の場合「ダイエット」というか、ある程度のウエイトコントロールは自分の健康のためなのです。

出来的範囲での適度な運動・和食風の食事・腹筋を鍛えること。全部別にダイエットに關係なく今の私の健康には必要なことだつたのです。

ただやつぱり、人から「痩せたんちやう」と言われたり普通サイズの洋服が着れると、ひそかに嬉しいのですが・・・。

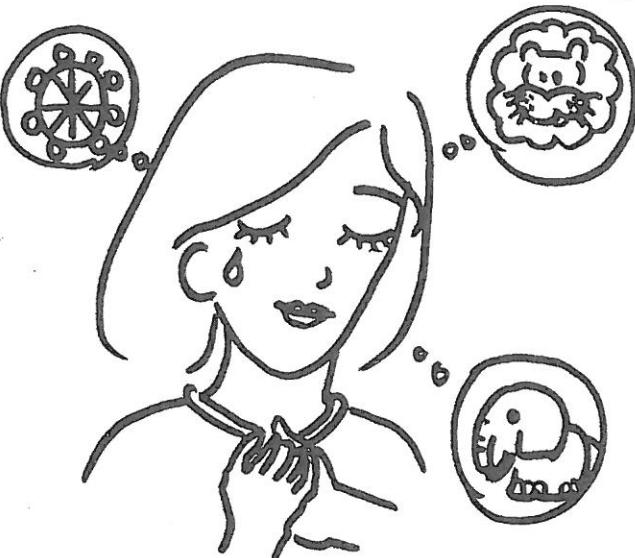
「運動が制限されているから、ウエイトコントロールは無理」ではなく、「健康な身体でいたい!」と意識すればおのずとウエイトコントロール出来るものだと、実感する今日この頃です。

宝塚ファミリーランドの

思い出  
中山君江

平成十五年四月七日に、宝塚ファミリー・ランドが、閉園するとのニュースをテレビで聞いた時、噂にはながれていたけど、ニュースで本当に聞くと、寂しさがこみあがつきましたね。アミリーランドは庭、遊び場です。また宝塚から大事な物がなくなり、思い出だけが残るのかなと思うと寂しいです。二十四歳まで見えていたので、動物園、遊技場、温室、ハスの葉の池、ボートを浮かばせていた池、菊の展示等など。。。母親が仕事で忙しかったので、小学校の頃は、ファミリー・ランドが嫌いになる時も、一人で遊んでいました。動物達。特に、サル山のおサル

百円で買った乗り物券(一枚づり)で、お化けやしき、ヒコウキ、メリーゴーランド、おサルの汽車に乗つて遊んだことが、懐かしいです。



たち、食べ物を投げてもらつて、姿やケンカして、サルなど、面白かったですね。小学校の写生会は、ファミリー・ランドによくきました。動物や植物を書きに来てました。。。

幼い頃が全て良いとは言わぬが、ひとつづつ宝塚から消えていくのではないかと心配です。昔はよかつたなんて言うと、年とった証拠だと言われそうですが、残さなければいけないものもあるように思います。宝塚劇場も古い建物が壊された時、なにやら寂しく感じました。たとえ、次に新しく劇場が建つても私が見て育った、あのつたのからまつた建物ではないので、私はとつては宝塚大劇場ではないのです。閉園されるまでに、子どもと一緒に昔を、振り返りに行つてみようと思います。アミリーランドは、残して欲しいと願いをこめて行つて来よう。

## これから自立をはじめる人に

私が自立をはじめたのが2年前の7月、施設生活が合わなくなって 西宮市にアパートを借りて 暮らしています。

一番大事なことを書いておきます。それは、約束を守ることと欲をもつことです。例えば、誰かとどこかで待ち合わせをして外出をするとして、その日が雨とします。相手はもう出発していたら自分が出掛けたくなくても相手のためにも多少の雨なら出掛けないといけません。出掛ける手段なら自分で考えたらしくてもあるように思えます。それと自分のためにも、多少の欲が無くては自分のためになりません。

無駄なお金を使うより多少の工夫で出費を減らした方が使えるお金が増えます。自分のお金は、有効に使った方がいいですよ。

土井 克哉

族りず現身の立男來るのつ場人を享こつるあり  
のに実障日て一た色人た合築そりや「人生、樂  
中つへ者あて匹と々生くニギヤ」<sup>♪</sup>苦もあ  
でい頭なにのいそ思有を、〇オニ才  
暮六でかな事たれいり漫ごく一ヶ月と  
らはななつ故のなまデ然ごく一世間半で  
七理かてかもりすスと世間で言います。個々活  
解受けしら事の。ガソリニアで過ごしま普は私  
受けま、実人ととは過ごしま普通まのし活  
してしまった。は理解受けまいといいで生は過ごしま普は私  
ままでいるれらそなり。計えてしまふまのし活  
までは家もれのりあを、てあ通まのし活



私の自立生活

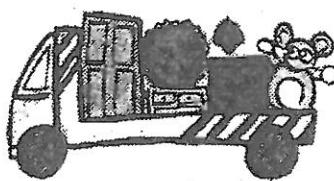
自立とは、何も親元や兄弟から離れる事で達成される訳では無いと思います。相談事ができれば、すればいい。悩み事ができれば、打ちあければいい。だつて家族だもん！要は、自分を自分らしく暮らす。管理する。調整する。一般的な社会人ならごく当たり前が、私はすべてをネガティブに感じていたのでしょう。

さて、そんな私ですが「自立生活プログラム」に参加し、またすでに独り暮らしを実践されている方とお会いし、私も少なからず勇気が出てきました。そして、ついに二〇〇二年三月十八日に待望を果たす事ができました。前準備や各種手続きやらで、前年六月ごろより始めました。超恥ずが：精一杯でした。なにせ、かしながらこの歳（一四）



感じでした。

十？歳（一四）になるまで実家から出たことが無く何から手を付けていいのやら？その間、両親・兄弟とに自分の意思を伝えへ勿論、日常会話上も独立の話は「いつかは、したいナ！」程度は言つてきました。引越し日がきました。三日間に分けて（十六・十七・十八日）新居に運び入れました。枕が変わると寝つきが悪いたちなので、十八・十九の二日間は一睡もできず！特に十九日は報道でも有りました様に「山火事」の影響で、直接の被害はないものの家の真横が



度違った生活になりました。ヘルパーさんの予定をこなしで行きながら、外出兼買い物、毎日の献立、ごみだし、洗濯掃除の依頼と、しつかり主夫をしてます。新聞・チラシ・ペットボトルの選別もやつてますヨう！ある、独り暮らしひ先輩（仮名：度胃勝矢氏）は、偏った食事を続けたので身体に発疹が出来たそうです。「注意、注意」。いい先輩がいてよかつたです…。この状況に慣れてきたので、これからは健康に留意し、自分なりの生活を継続していきます。

金岡 幸二



ばんざい、一人暮らし！

古谷かおり

三月三一日夕方。十六年間生  
活していた授産施設カトトレアの  
園(西宮市)を退所し、宝塚市  
に引越ししてきた。

園は、ここ数年の間に改善され  
てきたが、私の入所したての頃を思  
い出すと信じられないくらい、閉鎖的  
で規則に縛られての生活の拘束や辛さも沢山あつた。  
でも、ずっと考えていたのは、グループホームで三、五  
人が集まり相談する段階までは  
居を建てるには莫大なお金がか  
かるし、と、話しがそこで止まつてい  
た。それが、急に一人暮らしでも  
うだと気持ちが変わつても

きたのは、カトトレアの園から一人、二人・・・と、西宮市でメインストリーム協会の支援を受け、私と似た障害を持つ者が一人暮らしを始めたからである。そして、園から利用者の単独外出が許されようになつてからは、電車を利用したり、リフトタクシーを利用したりして、電動車いすで一人でもどんどん出かけて行つた。だから、一人暮らしもできそだと「自信」がついたのである！施設での集団生活の拘束や辛さも沢山あつたけど、今思えば、あの頃があつたから、「守られるばかりでなく、自分でつくる人生であつた」と強く願い続けてこらへた。

私の新居は、阪急山本駅の近くで、I・Lセントラルのすぐ近くでもある文化住宅だ。私の一人暮らしの第一条件は、誰にでもくつたのが、ひとりひとりの条件がばらばらだし、個々の障害に合わせた住み良い一軒の住居を建てるには莫大なお金がかかりました。けれど、話しがそこで止まつていた。

本来は、自立生活体験室を借りて生活の訓練をするのと同時に、段階を踏まないような形で、一段階を踏まないような形で、一年の十二月のある日に、ちよつと顔を出してこようとしたが、I・Lセントラルに行つた時、「古谷さんにはどうかなあ？」と住宅を紹介して頂けたのが、私の一人暮らしに向けての急展開になつた。向けての急展開になつた。好条件が揃い、長年の目標が現実になつた！「今がチャンス！」と思つたから頑張れた！  
そういうわけで、私はラッキーラッキーだが、あまりにも一足飛びで決つていつて、その分、不安も大きかつた。でも、一人暮らしのスタートは以外に順調、快適に過ごせている。ヘルパー制度のお世話になり、特にハピニングもなく、今のところは誰にもSOSを出さずに、自分が動きを取り易いことを考え、交通の便是良くしに、その上、何かと頼りに、今までできなかつた。

たこともできたりする。「宝塚市で始めて良かった」と、心から思う。

これから、プライベートな時間やI-Lセンターに通つて、新たに経験や勉強をしながら、自分で経験することを着実にやっていきたい。

編集後記

暑い季節になりました。みなさんも毎日汗をかいて仕事をしようとをしていることでしょう。私が子どものころはクーラーなんて一週間に一回つけたらいいほうでした。が、最近は毎日のよう、「クーラー、クーラー」といつてリモコンに手が伸びます。こんなことを思うと「暑い」のは、地球温暖化の影響か?「ない」私ですが、ほんとうはただただねえ。

●事務局より

○寄付金の御礼  
以下の方々より寄付を頂きました。今後の会の運営で有効に使わせて頂きます。ありがとうございました。

・関西学院大学高等部宗教委員  
クリスマス献金

日野猛美

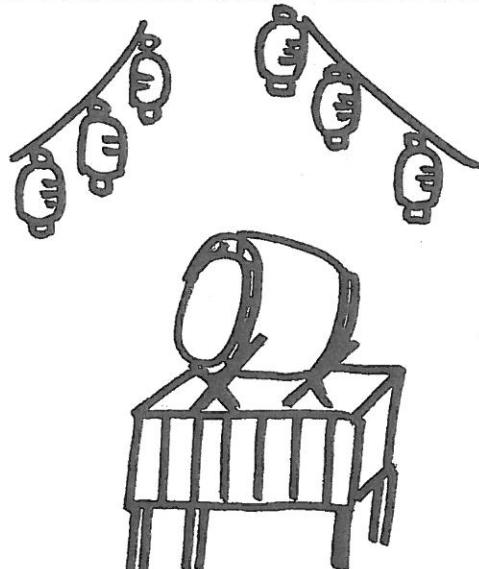
さんまくん

ぱんぱこやま

コトリ

ケイ

敬称略順不同



「障害者情報クラブニュース」第16号2002年5月17日発行

編集者 障害者情報クラブ編集部 中道 望

編集責任者 障害者情報クラブ事務局長 光森 千早

所在地 〒665-0816

兵庫県宝塚市平井2丁目1番10号ハイ・エフ・オ-205号

障害者情報クラブ事務局

障害者情報クラブI-LセンターTEL&FAX 0797-82-2233

e-mail:@sjcii@anet.ne.jp

郵便振替 記号14360 番号43110611障害者情報クラブ

銀行口座 さくら銀行逆瀬川支店普通預金3566211障害者情報クラブ代表坂上正司